

平成 31 年 4 月 23 日

報道機関 各位

人文学部の先端的かつ多様な研究を 示す論集を発行

富山大学人文学部は、学部教員による研究会「人文知」コレギウムを定期的
に開催しています。富山県の「人文知」の拠点として、人文学研究のさらなる
高みを目指し、様々な分野の教員が集い、相互に研究交流を図っているもので
す（※「コレギウム」は「仲間たちの集い」という意味のラテン語）。

このたび第 7～12 回の内容をまとめた『富山大学人文学部叢書Ⅱ 人文知の
カレイドスコープ』を刊行しました。なお昨年 3 月には、第 1～6 回の内容を
まとめた『富山大学人文学部叢書Ⅰ 人文知のカレイドスコープ』を刊行して
おります。

つきましては、取材、報道方についてよろしくお取り計らい願います。

1. 内容

別紙のとおり。

【本件に関する問い合わせ先】
富山大学 人社系総務課（人文担当）
TEL. 076-445-6135

別紙資料

『富山大学人文学部叢書Ⅱ 人文知のカレイドスコープ』

第1章 東西の思想、宗教、歴史

「連続体の迷宮」とは何か

——ライプニッツとパースが挑んだ哲学最大の難問——

池田真治

フランス右翼ナショナリズムの論理構造

——シャルル・モラスが設定した二つの「敵」——

南 祐三

ロシア人の伝統的死生観

——玉川大学教育博物館所蔵アイコン「最後の審判」を読み解く——

中澤敦夫

第2章 文学の普遍性

宇治十帖前半とアンドレ・ジッド『狭き門』

田村俊介

第3章 社会の多様性

ルールとは何か

佐藤 裕

韓国のLGBTコミュニティをとりまく現状

——プライド・イベントの現場から見えてくるもの——

林 夏生

アメリカにおける福祉政策と市民の境界線

——生殖をめぐるポリティクス——

小野直子

第4章 地域の社会とことば

こどもの生活空間とまちづくり

——楽しく失敗できるまちに向けて——

大西宏治

音声面での「〇〇語（方言）らしさ」の定義は可能か

——東濃西部方言の実例をもとに——

安藤智子



『富山大学人文学部叢書Ⅰ 人文知のカレイドスコープ』

第1章 富山を知ろう

——富山、病の未来を切り拓く——

より生きやすい社会を目指して

富山県における高次脳機能障害支援の展開と社会学

伊藤智樹

ダークツーリズムの視角からみた観光地富山の可能性

鈴木晃志郎

——富山、地域性を彩る祭りとは——

富山の祭りの魅力を考える：福野夜高祭を事例にして

藤本 武

日本語敬語：その地域バリエーションと富山県

中井精一

第2章 東西の歴史と思想を知ろう

——時の彼方から蘇るモノ、そして人——

出土仮名文字資料の研究

鈴木景二

東洋史学事始——内藤湖南と桑原隲蔵——

徳永洋介

——人と社会の病理 近代ヨーロッパの思想と文学の知見から——

理性の病理学：カントの理性批判をめぐって

澤田哲生

犯罪を人文学する——フランス言語文化からのアプローチ——

梅澤 礼

第3章 異文化を知ろう

——映像とことば、「客観性」という幻想——

最新アメリカ映画に見るマイノリティ像の多様化

——ディズニー実写版『美女と野獣』から

『ドリーム』までの4作品をめぐって——

赤尾千波

学習辞典における重要語とは？——ドイツ語の場合——

黒田 廉

——漢字、その深奥なる世界へのいざない——

甲骨文も言語である——言語の普遍性——

森賀一恵

漢文訓読研究のコペルニクスの転回

小助川貞次

